

庵 功雄 [著]

やさしい日本語

多文化共生社会へ

岩波新書 新赤版 1617／240 頁／本体 840 円

ISBN 978-4-00-431617-6／2016 年 8 月 19 日発売

人口減少を背景に、移民受け入れの議論が盛んになっている。受け入れるとしたときに解決しなければならないのがことばの問題。地域社会で共通言語になりうるのは英語でも普通の日本語でもなく〈やさしい日本語〉だけ。移民とその子どもにとどまらず、障害をもつ人、日本語を母語とする人にとって〈やさしい日本語〉がもつ意義とは。



◎著者紹介

庵 功雄 (いおり いさお)

1967 年大阪府生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。大阪大学助手、一橋大学講師、准教授を経て、2013 年より一橋大学国際教育センター教授。専攻は日本語教育、日本語学。著書に『新しい日本語学入門（第 2 版）』スリーエーネットワーク、『日本語教育・日本語学の「次の一手」』くろしお出版、『留学生と中学生・高校生のための日本史入門』晃洋書房、『「やさしい日本語」は何を目指すか』ココ出版（共編著）などがある。

◎目次

まえがき	第 5 章 障害をもつ人と〈やさしい日本語〉
第 1 章 移民と日本	第 6 章 日本語母語話者と〈やさしい日本語〉
第 2 章 〈やさしい日本語〉の誕生	第 7 章 多文化共生社会に必要なこと
第 3 章 〈やさしい日本語〉の形	あとがき
第 4 章 外国にルーツを持つ子どもたちと 〈やさしい日本語〉	参考文献
	付録 〈やさしい日本語〉マニュアル